

校長メッセージ ～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校 丹羽

「感謝の心」

夏休みは、ご家庭で子どもとゆっくりお話をする機会が増えるのではないのでしょうか。今号では、6月18日に発行された「あすまの第106号」に掲載されている「子どもたちを支える家庭教育7つのポイント」の中から④「感謝の心」について述べたいと思います。「感謝の心」をもとに育まれるいろいろな「心」を話題とし、子どもたちに育みたい「心」について考えてみます。

♡『ありがとう』という感謝の心♡

日本語の中で、「ありがとう」という言葉ほど、多くの人々に好まれ、愛されて使われている言葉はありません。「ありがとう」は、その言葉のやさしさ、響き、そこに込められた感謝の気持ち、人間関係を良好にしてくれる最高の言葉です。「ありがとう」という感謝の気持ちは、心の深い部分、ハートから来るものです。

♡『すみません』という素直な心♡

すみませんと素直に言えないと、自分がそれほどたいした人間でもないのに、腕力とか立場で、自分がさも偉くなったと勘違いをしてしまいます。そうすると自分の尺度で物事をはかろうとするので、正しいの、正しくないのと短絡的なものの見方しかできなくなるのです。つまり、素直であるということは、先を見つめる目をもつことになります。『すみません』と言えるか言えないかはとても大切なことです。

♡『お陰様』という謙虚な心♡

自分が元気な時は、自分一人で生きていると思って、周りを傷つけていることになかなか気付きません。寂しさ・悲しさに出会った時、『ひとりで生きていくわけじゃないんだなあ』と感じます。世の中で成功している魅力的な人は周りの人のお陰をいつの時点でも忘れません。成功する為の心の持ち方の一つです。

♡『私がします』という奉仕の心♡

気が付くという事は、自分が気付いたのだから、自分がすればいいのです。人に対して、愚痴を言うのではなく、まず動いて、気付いた自分に『ありがとう』と言ってみましょう。自分の事だけではなく、相手の事を考えて行動できる自分、もっというならば、相手が喜ぶ姿を見て、喜べる自分って素敵です。気付いたらすぐ行動することが大切です。

♡『ハイ』といえる知恵の心♡

これをものにする、100%嫌われません。どんな形であろうと、答えはひとつ『ハイ』。キャッチボールに例えるならば、どんなボールでもかならず受けてみましょう。そして、それを相手がとれるボールとして返してあげるのです。全てのものに『ハイ』というのは、非常に難しいことです。それは自分の尺度ではかるから、難しく感じるのです。相手の尺度ではかれる（相手の立場になって思いやる）自分になる為の知恵を身につけるのです。

感謝の心・素直な心・謙虚な心・奉仕の心・知恵の心、5つの心、どの心も素敵な心です。ご家庭でも、子どもたちにわかりやすくこれらの心の現れた姿を話題にさせていただき、素敵な心をもった人への憧れをいだかせていただければと思います。